

①大避神社を信仰する人々

◆雅楽家 東儀秀樹氏ホームページ

「東儀家は1300年以上も雅楽を世襲の仕事としてきた楽家で、
その祖は秦河勝である。」

河勝没年（伝647年）後、1350年を記念して、
1997年坂越大避神社で舞を奉納。

◆世阿弥（秦元清 室町期、能楽を大成）の『風姿花伝』（芸能論書）

「近来、万人のもてあそぶところは、推古天皇の御宇に
（聖徳太子が）秦河勝に仰せて、かつは天下安全のため、
かつは、諸人快樂のため、六十六番の遊宴をなして、申樂と
申せしより以来…」

「面の段に有るべき儀。翁に対したてまつりて、鬼面を当座に安置したて
まつること、これは、聖徳太子御作の面なり。秦河勝に猿樂の業を仰せつ
けられしとき、河勝に給ひけるなり。これすなわち、翁一体の御面な
り。諸天・善神・仏・菩薩と初めたてまつり、人間に至るまで、柔和・
憤怒」二つの形有り。これ善悪の二相の形なるべし。…これ一体異名な
り」

能楽の大成

◆諸国の人形使い（傀儡子）

4-2

西宮戎神社近辺、人形使いの居住地（西宮市産所町）
百大夫神社を信仰、戎神社に奉仕しつつ各地を遍歴
淡路に伝播、各地に拡大、現在の文楽に発展

◆大避神社

木津・大枝・大枝新大避神社…高瀬船水運業者の信仰
岩木・休治・下田・土井・三濃山大避神社…近辺に鉱山、
金属業者の信仰

木津大避神社…大工の信仰

◆なぜ、芸能民の信仰なのか？

猿楽師＝鉱山師・鍛冶師

江戸初期金山奉行大久保長安（秦氏系）

①代々猿楽師の家系

佐渡・石見の銀山巡検の際、芸能民を大勢引き連れて訪問

②金属精錬

秦氏系が使っていた新技法を導入、飛躍的に生産性を拡大

③水運

紀伊国新宮～佐渡の水運ルート構築

世阿弥の最終的拠点…大和国結崎

鍛冶師の居住地

◆なぜ、播磨を舞台とした伝承が残るのか？

大和岩雄氏の説

能楽と関わりの深い一大拠点

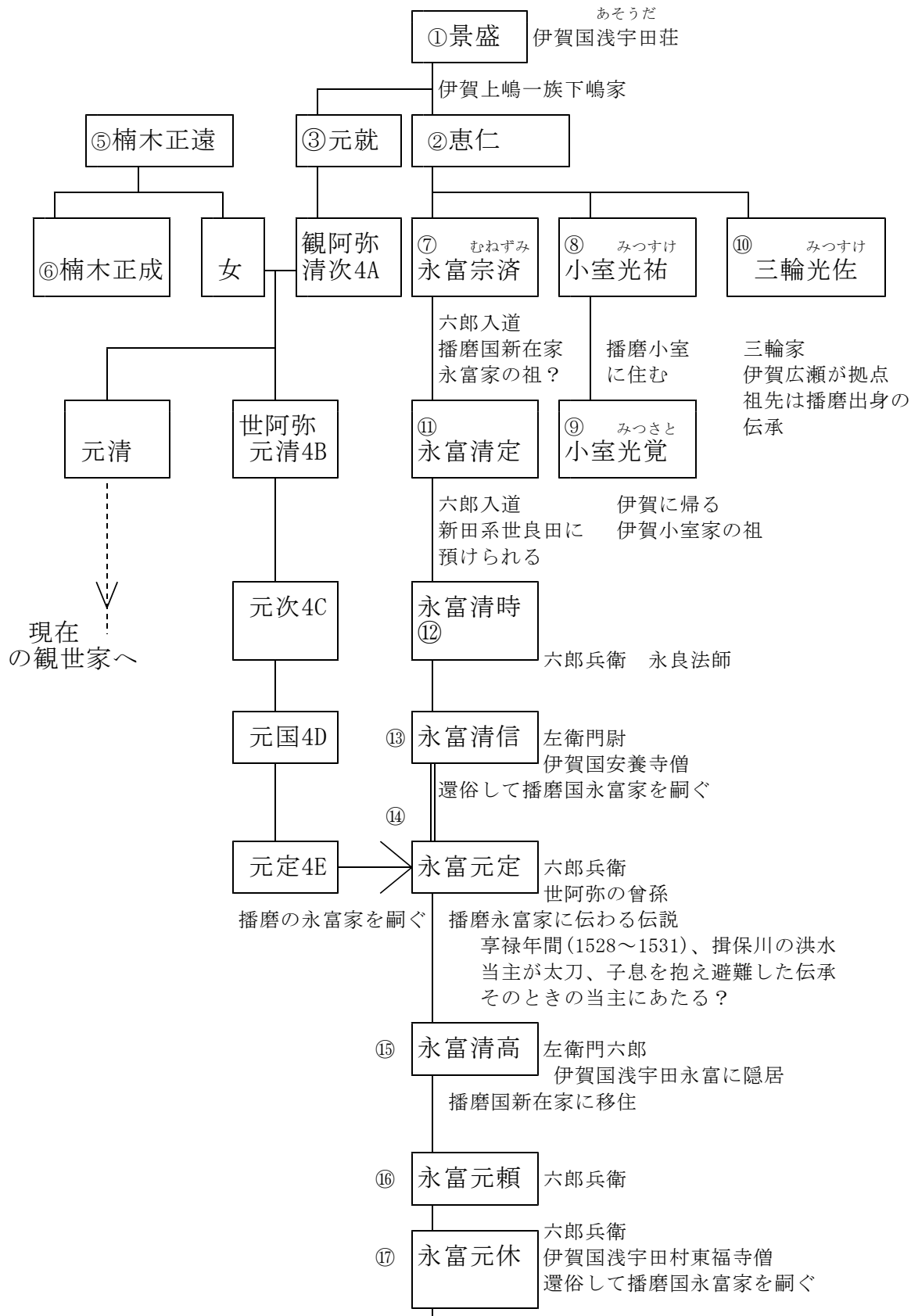
秦氏と関わりの深い陰陽師集団の拠点

§ 2 地方有力者のネットワーク

4-3

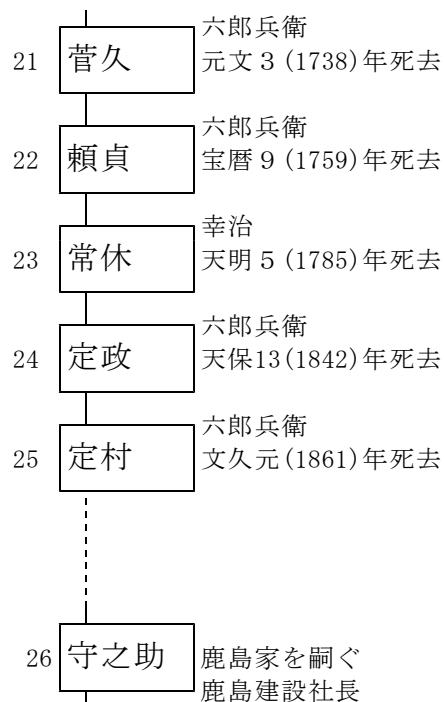
～ 西播磨・伊賀広域ネットワーク 永富家の人々～

◆1960年代に確認された鎌倉末～桃山期の永富家系図



◆江戸後期に作成された永富家系図

4-4



◆永富家保有地石高 18世紀以降、大地主に成長

※平均的農家は10石

1601年 2石
1699年 44石
1716年 61石
1748年 113石
1844年 193石

龍野藩主脇坂家がしばしば訪問、ご用金も上納

◆永富家の伝承

新田氏の末裔、永良六郎の末裔

享禄年間の揖保川の洪水で、当時の当主は、秘宝の刀と子を抱え、
命からがら逃げ延び、新在家に移住

当初、永富家にはこの伝承を確かめるすべがなかった。

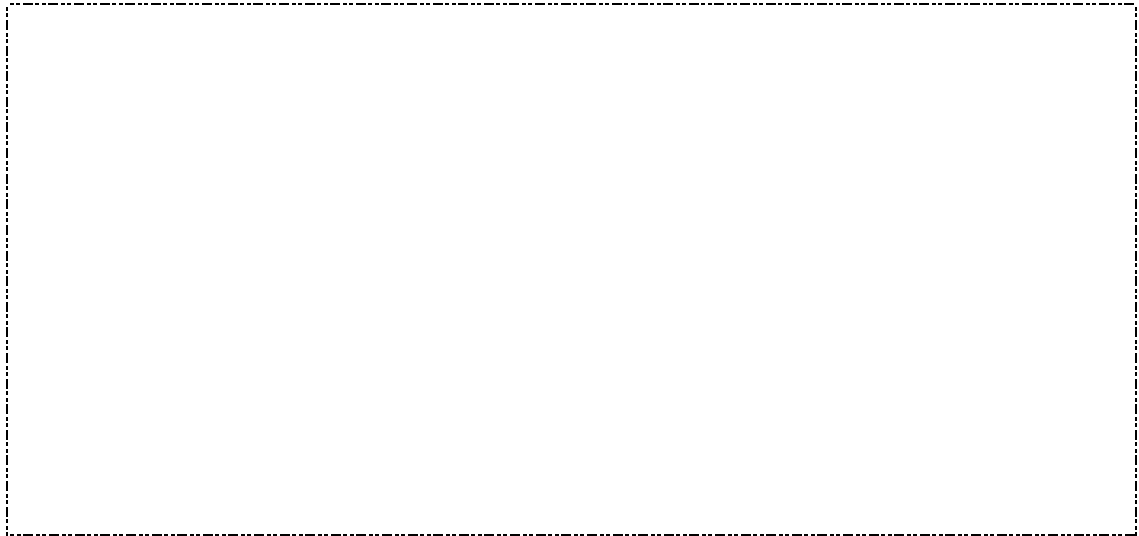
◆永富家住宅がたつの市揖保川町新在家に残る

◆永富家の信仰

亀山本徳寺門徒総代

§ 3 矢野周辺の一向宗(浄土真宗)寺院 4-5

浄土真宗とは？



榊 法林寺

秦河勝家臣、山本刑部が移住、建立、後に三輪を名乗る
1501年、の了恵が実如上人の指導で出家、法林寺開基に

榊 西教寺

赤松氏の子孫の祐信が実如上人に帰依、浄智と改名、
1401年開基。

森 光専寺

赤松義村の孫、小林義光が蓮如と結び道場を開く。
6代目教誓に至り、実如より寺号・仏像を賜る。

八洞 称念寺

1519年開基。赤穂市万福寺の末寺に。

寺田 善行寺

赤松円心が八洞山太平寺を建立、後に岡豊前守元則が
道修と改め、善行寺を建立

雨内 教証寺

山本九郎衛門良尚が、蓮如上人の法話により、
真言宗から浄土真宗に改宗。

§ 4 蓮如と実如・実円

4-6

◆蓮如年譜

1415年、本願寺法主存如の長子として生まれる

1457年、法主を継ぐ。

以後、近江で布教活動。

比叡山の弾圧、大谷本願寺が破却される

大津南別所に移転。

1471年、越前に吉崎御坊建立

※浄土真宗中興の祖蓮如の布教方法

MEMO

御文 一種のダイレクトメール（真宗の教えを記す）

講（門徒のグループ）組織、村落ぐるみで布教

村に惣道場（一種の門徒のサロン）設立

都市・武家の拠点だけでなく農村に幅広く浸透したのが、

一向宗の特徴

これを基礎に北陸・東海・近畿に勢力を拡大

1481年、京都に山科本願寺建立

1496年、石山御坊建立（ 現在の大坂城の地 西国布教の基礎）

1499年、死去

◆実如年譜

1458年、蓮如の第8子として生まれる

1489年、蓮如の引退に伴い、本願寺法主に。

1525年、死去

§ 5 英賀御坊

4-7

明応年間(1492~1497)、蓮如の側近空善が下向、英賀に道場を建立

1512年、本願寺法主実如の子、実円が英賀に下向

1515年、英賀御堂が落成

本願寺法主一族が統括する格式高い一向宗寺院に

商工業者・交通業者に布教、基盤とする。

瀬戸内海航路を通じて西国布教の拠点

農村にも布教したのが

他宗と異なる際立った特徴

長衆、中老などで構成する執行部による自治

町全体が土塁で囲まれる。門徒集団の高度な技術で築造

英賀門徒も本願寺とのネットワークを基礎に内海交易において

強力な勢力として台頭

※前回触れた摂津渡辺党 西国の海域を支配